

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238
法人名	医療法人輝栄会
事業所名	グループホームトリニテ松崎
所在地	福岡県福岡市東区松崎2丁目7-21
自己評価作成日	令和2年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年3月25日	評価結果確定日	令和2年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には公園があり、日和の良い日には散歩に出かけております。施設前の道路は子ども達の通学路でもあり、往來の際に挨拶をしたり、お話しをしたりと交流することもあります。
また、JR千早駅から車で5分程の位置にあり、利便性に富んでいます。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しています。緊急時の対応も万全です。更に、小規模多機能ホームやサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設ということもあり、小規模多機能などを利用しながら、更に介助が必要となればグループホームへの入所を検討することもでき、ご本人様やご家族様の安心に繋がっているようです。
また施設で最期を迎える”看取り”の体勢の構築にも力を入れており、ご利用者様が住み慣れたところで、また大切な方々に見守られながら、最後まで心豊かな生活が送れるようにスタッフ皆でケアにあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームトリニテ松崎」は、サービス付き高齢者向け住宅や小規模多機能型居宅介護事業所が併設された複合施設「トリニテ松崎館」の2階部分に位置し、開設して9年目を迎えている。母体医療機関との密な連携を活かし、日々の健康管理や医療ニーズへの対応が可能であり、看取りを支援した実績もある。また法人内の連携は、職員育成や災害対策、地域交流等に活かされ、サービスの質の確保に結び付けている。複合施設前には公園があり、多々良川河畔公園にも近く、街なかの利便性と自然が多く残る豊かな生活環境を有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人及びトリニテ独自の理念をフロアと事務所内に掲示し、毎朝の申し送り時にスタッフ皆で唱和し、理念の共有と実現に取り組んでいる。	目に付きやすい場所に理念を掲示し、毎朝の申し送り時に唱和を行い、一日が始まる。新規採用時には、理念の理解と浸透を図り、法人としての支援の方向性を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議には必ず松崎2丁目自治会長様及び民生委員様へ参加を依頼し、情報共有を図っております。また地域の夏祭りや清掃活動への参加、トリニテでのバザーや作品展覧会を通し、地域の方との交流と施設の開放を図っている。	地域の「名島ささえあいネット」に参画し、認知症啓発活動を行っている。また、公民館の立地を踏まえ、送迎支援も行っている。複合施設として、社協の主催する「いきいきサロン」の開催に協力する等、地域貢献に努めている。コロナ禍以前は、利用者の方々と共に、地域の夏祭りへの出展や参加を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	名島ささえあいネットという校区内にある福祉施設や介護保険事務所11施設で活動しているネットワークに参加し、地域の方に向けた認知症の勉強会を行ったり、校区の行事での公民館までの送迎支援等を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様からご意見ご要望を賜り、また自治会長様や民生委員様、他事業所の方と情報交換を行うことで、事業所としての今後の取り組み方について考える良い時間となっている。	家族や自治会長、民生委員、社会福祉協議会、消防団、他事業所管理者、地域包括支援センター、法人理事長等、多彩な顔ぶれで運営推進会議を開催している。運営状況の報告や地域情報の共有を基に意見交換を行い、意義のある開催を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの管理者様や社会福祉協議会の担当者様に必ずご参加いただき、トリニテの現状をお伝えしご助言頂いている。	運営推進会議には、地域包括支援センターや市消防局名島分団、社会福祉協議会より、担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有し、開かれた事業運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに則し、現在身体拘束は行っていない。また施設内研修を通して身体拘束廃止を職員に周知徹底している。事故防止及び身体拘束廃止委員会は毎月1回行っており、施設内の事故やヒヤリハット事例について把握、事例検討も行っている。	定期的な研修や委員会活動を通じて、職員の意識と知識の向上に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、全職員への意識調査の実施やスピーチロックへの意識を高める等、より良い実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止、権利の擁護についての研修を内部研修で必ず行っており、外部研修にも積極的に参加している。職員への意識調査アンケートを実施して、職員の知識と意識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、成年後見制度を利用されているご利用者様がおり、管理者はもちろん職員全員が実体験を以て周知している。また成年後見に関する研修を修了した職員が在籍している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、内外の研修の機会を設け、制度の理解に努めている。現在、制度を活用している方もおり、支援の過程を通じて学ぶ場面も多い。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にかかる費用や毎月の請求については料金表を用いて具体的に説明をし、また医療費受診代なども項目を設けて分かり易く提示している。これまで契約や解約に伴うクレーム等は発生していない。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様より頂いた声は業務日報に記録として残し、申し送り時に口頭で伝達しており、月1回行っているユニット会議でも伝達している。皆が共有できる様に努めている。	納涼祭やクリスマス会等の行事の際には、家族にも声かけし、参加率も高い。事業所通信の発行や、各担当者による月例の報告等を通じて日々の暮らしぶりを家族と共有している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を開き職員の意見や提案を聞いており、改善すべきは適宜改善しております。当日参加できない職員に関してはあらかじめ意見を聞いておき、議事録を通して全員で情報共有が出来るようにしている。	定期的なユニット会議やミーティングの開催を通じて、職員意見の収集と検討に努めている。出された意見や提案によっては、管理者会議で検討され、フィードバックされている。昨年度は初めて全体会議を開催することが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを用い、半期に1度目標の設定・見直しを行っている。そこで管理者と面談を行い、自己評価と照らし合わせたうえで、職員一人ひとりと管理者側の意見のすり合わせを行っている。昇給は年一度春の査定で決定、労働時間等契約事項に関しては状況に応じて適宜考慮し必要であれば変更している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女、年齢に関係なく募集・採用している。募集・採用に関しては法人側が統括しており、その時々的人员配置状況に応じて所属を決定している。所属の決定に関しては現場管理者の意見も考慮され、経歴・職歴また保有する資格をかんがみ、業務を分配し、各人の能力が発揮できるよう努めている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。法人内の系列事業所では、外国籍職員も入職されている。ギターの得意な職員が音楽レクを実施したり、壁面構成を得意とする職員もおり、それぞれの特技を発揮する場面がある。有給の取得や勤務希望等に柔軟に対応し、働きやすい環境づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者権利擁護に関する職員研修を行っている。	高齢者虐待防止や法令遵守、パワーハラスメント等の研修実施を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。また、職員のメンタルヘルスやストレスケアに関する研修も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内は必ず掲示し、意欲のある職員には積極的に参加をさせるようにしている。また法人の院内研修や施設内の研修を年間を通して行い職員の資質向上に努めております。資格取得も応援しており、そのための研修には全員でシフトに関してなど協力するようになっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に登録し研修会や交流会の場へ参加している。他事業所の運営推進会議への参加もしていたが、最近はなかなか参加できていないので、今後は積極的に参加し、他事業所との横のつながりを構築し、情報交換を通してサービス向上に努めたいと思う。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりに担当利用者を割り振り、細やかにアセスメントを取り、ご利用者様の可能性を引き出しながら、かつケアプランが単なるプランにならず、実現可能なものとなるよう、工夫している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から時間をかけてこれまでの生活歴や暮らしの情報、悩みや相談を聞いている。また一度ではなく何度も重ねてヒヤリングし、ケアの参考にすることは勿論、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を引き出す工夫や混乱させない工夫をすることで、認知症の方でも暮らしやすく、かつ出来る事を増やすことを目指している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回は家族会の意味も込め、忘年会と納涼会を開催している。また外出レクやお誕生日会などには必ずご家族様にもお知らせし、ご参加を促している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクとして自宅への帰宅支援を行っている。今後も馴染みの関係や場所との関係を大切に、家族だけでは実現しえないことを介護専門職の強みを活かして個別対応していきたい。	居室には、仏壇やラジオ等、持ち込みの品も多い。家族参加型行事の企画や、お孫さんが働く店舗を利用する等、個別の対応も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションには必ず職員も参加し、声掛け気配り目配りし、皆様が参加し孤立することないようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様との関係性は大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が故、本人の思いを聞き出すことは難しい場合も多々あるが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などを鑑み本人様に寄り添う努力をしている。	センター方式を一部活用し、家族の協力も得ながら情報収集を行っている。困難な場合には、表情の変化や仕草、行動等から推し測り、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントでは職員全員が個々が持っている情報を全部書き出し、それを基に担当を中心として全員でケアプラン作成をするようにしている。ご家族様への聞き取りも担当だけでなく、全員が行う仕組みにし、行った場合は詳細に記録し情報共有するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSにも報告助言してもらい、健康管理をしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしている。介護職だけでなく、看護師やドクターにも助言してもらっている。	本人、家族の意向を踏まえ、担当職員や主治医、看護師等の意見をもとに検討を行い、介護計画を作成している。日々の実施記録や各種帳票、定期的なカンファレンスやモニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けしている。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有するようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様ご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っている。ご家族様との毎日の交換ノートや帰宅支援など、ご本人様、ご家族様と一緒に計画立案し、実現させてきました。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や夏祭り、バザーなどで地域の方々との交流を図っている。松崎ふれあいサロンをトリニテにて毎月実施している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしている。他の方は千早クリニック往診にて日常のフォローをしている。	入居契約時に、かかりつけ医の希望について確認を行っている。母体となる協力医療機関より訪問診療が実施され、日々の健康管理や早期対応につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしている。看護師の不在時は他の部署の看護師に支援を依頼したり、電話連絡にて状態を報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院ということもあり、入退時の情報交換はスムーズに行えている。また入院中はこまめに面会に行き、遠方のご家族様に状況を報告するなどしている。早期の退院に向け病院ソーシャルワーカーとも密に連絡をとっている。退院時はムンテラに参加するほか、ADL確認を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況、状態に応じて継続した意思確認やご家族との密な話し合いの場を設けている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居契約時に事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と関係者との方針共有に努めている。医療との密な連携のもと、看取りを支援した実績もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあつた際はすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようにしている。	各種災害に対応するマニュアルを整備し、複合施設全体で防災対策に取り組んでおり、運営推進会議には地域消防団より出席を得る機会がある。自然災害に関する研修が実施されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めている。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境である。	働き方改革の研修の中で、挨拶や言葉かけについて取り上げたり、法令遵守や高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を確保している。個別の居場所の確保や自尊心の回復に向けたアプローチも確認できる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるように心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切に、同じような格好をするのではなく、色々な洋服を着るよう支援している。またご自分で選べる方に関してはご自身の好みを尊重している。美容室への外出支援も行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったりできるご利用者様が今はいないですが、それでも器に取り分けたり、出来る限り参加していただくようにしている。	母体法人管理栄養士により、「認知症高齢者の食事の工夫」について研修が実施されている。個別の状況に応じた食事形態や水分摂取の工夫等に取り組んでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはトロミを使用したり、咀嚼が困難な方にはソフト食やミキサー食を提供し食べて頂いている。また食事摂取量が減ってきている方に関しては補助食品の導入などもドクターに相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きと舌磨きを行っている。うがいが出来ない方は口腔ケア用スポンジを使用し口腔ケアを行っている。また別府歯科往診も継続している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行っている。下剤に頼らない排便を目指し水分摂取を励行するなど、職員皆で意識して取り組んでいる。	個別の排泄状況や機能の把握に努め、出来る限りトイレでの排泄を継続できるよう取り組んでいる。水分摂取量の確保や、ヨーグルトの摂取を継続し、自然排便を目指しアプローチを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取励行。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方ばかりなので、一日置きに入浴できるよう入浴スケジュールを立てている。シャワーや清拭ではなく、2人介助や機械浴など、その方に応じた入浴介助を常に考え、実践している。	基本的な入浴スケジュールは設定しているが、体調や希望、状況等に応じて、柔軟な対応に努めている。特殊浴槽による対応も可能。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れている。就寝時間についてもある程度のスケジュールはあるが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きるように職員は配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしている。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供は毎朝行い、皆さま熱心に取り組んでいる。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしている。また季節に合わせた外出レクも企画し、その際にはご家族様にも声掛けし、参加を募っている。	複合施設の目の前の松崎公園や、多々良川河川敷に整備される遊歩道も近く、気軽に外気浴や散歩が行える環境にある。個別や少人数での外出や、家族参加型の行事を企画し、外出支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの買い物の支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿って廊下の飾りを変えて季節を感じられるようにしている。また大きく書いた壁掛けカレンダーを設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っている。	複合型施設「トリニテ松崎館」の2階部分に2ユニットの事業所が位置している。採光も良く、ゆとりある室内空間には、各所にセンスあふれる飾りつけが施されている。回廊式で2ユニットがつながるため、個別の歩行訓練のコースを設定する等、機能維持・活用にも取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話しができるよう座る位置を考慮している。またトラブルになりそうな場合は職員がすぐに間に入り、良好な関係の維持に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて職員の介助(特に体交や移乗)の利便性を考えベッドの配置などはレイアウトはするが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっている。	各居室には、介護ベッドやクローゼット、ナースコールが設備されている。仏壇や冷蔵庫が持ち込まれ、生活感ある居室も多い。動線の確保等に留意し、ベッドの配置を工夫し、安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、視力が悪い方に対し手すりの位置がわかるように赤いテープを巻いて目立つようにしたり、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤している。		